

あかふじ

ニュース

第 4 号

発行 平成 2 1 年 8 月
山梨県消防防災航空隊



《山梨県ホームページ》
<http://www.pref.yamanashi.jp>

《やまなし防災ポータル》
<http://www.pref.yamanashi.jp/bosai>

山梨県消防防災航空隊
〒400-0108 山梨県甲斐市宇津谷 445-1
TEL 0551-20-3601
FAX 0551-20-3603
E-mail bousai-kokuu@pref.yamanashi.lg.jp

目次

| | |
|----------------------|---|
| あいさつ | 1 |
| 災害出動件数及び緊急運航出動 | 2 |
| 合同訓練実施内容（平成21年3月～7月） | 3 |
| 室長及び新隊員紹介 | 5 |
| 消防隊員等の現場投入 | 6 |

～「あかふじニュース」発行に寄せて～

日頃から県内各消防本部を始め関係機関の皆様方におかれましては、消防防災航空隊の多種多様な災害活動等に対し、ご理解・ご協力を賜っていることに紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

翻って、平成元年の消防審議会において「消防におけるヘリコプターの活用とその整備のあり方に関する答申」がなされてから早くも20年が経過し、この間、本県でも消防防災ヘリコプター「あかふじ」が平成7年4月の運航を開始して以来、4100時間を超える飛行時間の中で、県民の生命及び財産を保護するため、平成20年度末で救助事案405件、救急搬送127件、林野火災防御99件など、安全運航に徹しつつ県民の負託に応えてきたところです。

このような隊の歴史を踏まえ、災害の大規模化・複雑化、新たなニーズに的確に対応できるよう、消防防災ヘリコプターの有効活用に必要な諸条件の再点検と整備に努めております。

具体的には

- 1 安全・迅速・効果的な運航に必要な場外離着陸場の整備
- 2 地上消防力との有機的・一体的な連携を確保するための地上消防隊との情報通信基盤の整備
- 3 大規模林野火災の発生に備えた消火能力の向上などに取り組んでおります。

また、万が一、本県で大規模な災害が発生した場合は、複数機のヘリコプターの応援を受けることとなり、そのため、今年度「航空機に係る緊急消防援助隊の受援計画」を策定することとしていますが、現場第一主義に立ちつつ、「危機管理体制の確立と地域防災力の強化」に向けた取り組みの一翼を消防防災航空隊で担って参りたいと考えています。

この度の「あかふじニュース」発行を通して、消防本部等との共同訓練を含む隊員の実践さながらの活動の一コマを関係機関はもとより県民の皆様方に広くご紹介し、ご理解をいただく中で、「やすらぎ・やまなし」の実現に邁進して参る所存でありますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年8月

山梨県消防防災航空隊
室長 深澤鉄朗

災害出動件数

| | 火災 | 救助 | 救急 | その他 | 合計 |
|--------|----|-----|-----|-----|-----|
| 平成20年度 | 6件 | 39件 | 15件 | 6件 | 66件 |
| 平成21年度 | 6件 | 23件 | 5件 | 0件 | 34件 |

(平成21年度については、7月31日現在)

緊急運航出動

4月11日 県内各地で発生した林野火災

甲州市勝沼町棚横手山で林野火災が発生した他、南部町、丹波山村、身延町と同日に4件のが発生しました。このため、特殊災害時における広域航空消防応援にて東京、横浜、静岡埼玉、群馬の消防防災ヘリを応援要請し、勝沼町の消火活動にあつては陸上自衛隊に災害派遣を要請しました。



延焼中の棚横手山

山岳救助活動

5月27日、富士五湖消防本部からの要請により富士河口湖町毛無山で滑落した女性一名を地上隊と協力し救出し、救急救命士が同乗し、河口湖総合公園で救急隊へ引渡しました。



地上で救助活動中の隊員

高山岳部に囲まれている山梨県は毎年30件以上の山岳救助事案が発生しており昨年一年間での救助事案は全体件数の60パーセントと多くなっています。

水難救助活動

5月14日、東山梨消防本部からの要請により山梨市内笛吹川に転落した男性1名を地上救助隊と協力し救助し、県立中央病院へ搬送しました。



笛吹川で救助活動中のあかふじ

5月26日、都留市消防本部からの要請により都留市桂川で遊泳中に流された男性1名を地上救助隊とボートにて救助し、県立中央病院へ搬送しました。

消防本部・関係機関との合同訓練

(峡南消防本部：平成 21 年 3 月 4 日)

身延町富士川クラフトパークにおいて林野火災対応訓練を実施。当日は、前日に降った雪が芝生広場に残る中、ヘリ特有の風、音を体感しながらバケットへの給水訓練を実施。二股分岐金具のレバーが凍る事態が発生し、不凍液で凍結処置を行う現場対応の訓練となりました。



ポンプ隊から給水の状況

(峡北消防本部：平成 21 年 3 月 5 日)

北杜市長坂町総合スポーツ公園において大規模災害を想定した総合的な訓練を実施。隊員投入訓練は事前に航空隊基地で駐機訓練を実施した後、上空(約30m)でホバーリングしている機体から地上隊の投入訓練を行いました。この外、あかふじが着陸した後の救急隊との傷病者引継ぎ訓練などを実施しました。



訓練後、あかふじの見学

(県立中央病院：平成 21 年 3 月 24 日)

県立中央病院において、病院職員と航空隊との傷病者引継ぎ方法等について、安全かつ円滑に遂行できるよう緊密な連携を図ることを目的とした訓練を実施。医療機材を携行した医師があかふじへ搭乗し、機内での処置、観察訓練を行い、訓練終了後に意見交換会を開催し相互理解を深めました。改善すべきことなどを意見交換した有意義な訓練となりました。



傷病者引渡しの状況

(埼玉県防災航空隊：平成 21 年 5 月 26 日)

あかふじ運航不能期間における相互応援や大規模災害時の出動を想定し、埼玉県消防防災ヘリあらかわ1号が双葉までの飛行ルート確認と県内の地形慣熟を兼ね来隊しました。2時間ほどの滞在でしたが相互の機体を使った駐機訓練を実施した後、機体、救助用資機材、活動内容等について意見交換を行いました。



埼玉県航空隊員訓練展示

(山梨県水防訓練：平成 21 年 5 月 31 日)
中央市臼井阿原地内の常永川が大雨により氾濫、河川敷内に車両 1 台が転覆、この事故により要救助者が発生との想定により、あかふじは情報収集任務のため出動しました。上空から事故現場及び周囲が見渡せる場所でホバーリング、河川及び要救助者の状況、状態を無線で地上隊に報告するとともに、上空から地上の安理全管を図りました。



ふるさと公園上空

(峡北消防本部：平成 21 年 6 月 30 日)
「武川町フレンドパークむかわ」において水防訓練を実施。峡北管内において過去に発生した水害を教訓とし、「土砂災害防止強化月間」を設け、関係機関との連携対応を目的とした訓練となりました。あかふじは上空からの情報収集、河川に流されている要救助者を機体ホイスドで救助した後、場外離着陸場での救急隊への引渡しなど総合的な訓練となりました。



「フレンドパークむかわ」での訓練

(長野県防災航空隊：平成 21 年 7 月 13 日)
長野県消防防災航空隊員が研修に来隊。長野県消防防災ヘリ「アルプス」が耐空検査期間中に、航空隊員 4 名が来隊し、当航空隊の自隊訓練を見学、その後、格納庫にてお互いの救助資機材を展示し緊急運航や自隊訓練の手法、考え方等の意見交換を行いました。



長野県航空隊員との訓練

(甲府地区消防本部：平成 21 年 7 月 15 日)
下曾根橋上流の笛吹川において、甲府地区消防本部、高度救助隊と流水救助訓練を実施。ヘリから要救助者 1 名をピックアップした後、市立甲府病院ヘリポートに搬送し、要救助者を病院関係者に引き渡しました。消防本部職員の誘導のもと、安全に着陸でき傷病者の引渡しがスムーズに行われました。



市立甲府病院の外観

室長・新隊員紹介



| | | | | | |
|-----|-----------|-------|------|----------------------|------|
| 左から | 隊員 | 事務員 | 室長 | 副隊長 | 隊員 |
| | 武井英司 | 大柴久美子 | 深澤鉄朗 | 赤井隆之 | 小林 雷 |
| | (東山梨消防本部) | | | (峡北消防本部)(峡南消防本部) | |

新隊員あいさつ

3名が平成21年4月1日付で各消防本部から派遣されました。

「山梨県消防防災航空隊は平成7年の隊発足から先輩方々の長い間の努力の積み重ねによって今日を迎えております。私たち第13期の新隊員3名は派遣元消防本部の代表として、山梨県消防防災航空隊の一員として技術の練磨と真の安全運航を目指し、県民の生命、身体、財産を大空より守り続けていく決意です。」



消防隊員等の現場投入訓練

災害発生時における山梨県消防防災航空隊ヘリコプター「あかふじ」への出動要請は、林野火災を始め山岳地域での救急・救助事案の増加に伴い増加傾向にあります。

このような状況の中で、ときに消防職員が「あかふじ」に搭乗して、航空隊員の介添えに支えられ現場に降下し、双方の協力により早期に傷病者に接触し、応急処置を施し、救出活動することにより救命率向上が期待される場合があります。また、林野火災発生時において、陸路での進入が困難な現場であっても資機材とともに隊員を投入することにより正確な状況把握や火災規模を最小限に抑制できる効果も期待できます。この外、緊急消防援助隊等の大規模災害時にも必要とされることが考えられます。

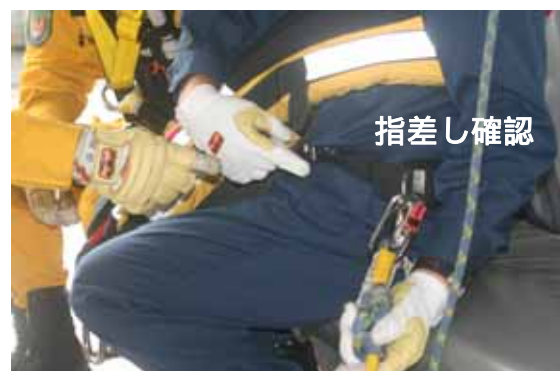
消防隊員投入要領（サバイバースリング使用）

機体右側に整列、航空隊員が右翼と左翼に配置します。右翼の隊員が機長に搭乗合図を行い、OKサイン確認後、右翼隊員を先頭に一列に機体に接近して搭乗します。（サバイバースリングは事前に縛着）



機内での搭乗位置は降下隊員の左側に位置し、腰縛帯に機内確保（カラビナ）を掛け、オペレーター（以下「OP」という。）に確認させる。

OPと消防隊員の二人で点検。（ダブルチェック）
その後、あかふじ離陸。





あかふじ降下高度に到着（機体はホバーリング）。OPの指示により降下準備を始め消防隊員は機内の床面に降下隊員と合い向きに座り降下隊員の股の下に足をおき、サバイバースリングのカラビナを手で保持する。

OPの指示により、降下隊員がホイストフックを手渡され降下隊員のスリングのカラビナと消防隊員のサバイバースリングカラビナをホイストフックに掛ける。



ホイストフックを掛けた後、最初に降下隊員と消防隊員で取り付け状況を点検。その後OPの指示で再度、3人で点検。（点検箇所：ホイスト安全ピン、カラビナ、サバイバースリング縛着状態）

機内から機外へ出る準備、OPの指示で、降下隊員と消防隊員の機内確保の取り外しを行う。消防隊員の機内確保はOPが外し、消防隊は目視にて確認。その後、OPに対しOKサイン。



ホイスト装置に吊られて機外へ出る。（降下隊員と共に機外へ出るところを後方からから写したのもの。）

降下隊員が外側に位置し、消防隊員は体全体が機外へ出てサバイバースリングに吊り下がった状態。この状態でホイスト安全ピン、カラビナ、降下場所等を含め最終点検を実施する。



降下途中、地上から高さ約5 m付近にて降下隊員が消防隊員の肩を叩き、降下場所（着地面）の確認を促す。消防隊員は降下隊員とともに肩口から降下場所を確認し、安全に降下できるよう準備。

到着と同時に消防隊員は膝をつかない低い姿勢で待機、降下隊員がホイストフックからカラビナを取り外し、サバイバースリングのカラビナを手渡す。その後、消防隊員は安全な場所へ移動。



第4回「あかふじニュース」の特集として消防隊員との同時降下を掲載させて頂きました。災害発生時、この訓練に参加した経験がないからと言ってホイストを使用しての同時降下ができない訳ではありません。しかし、ヘリコプターという特殊な機体、また、高所からの降下という危険性を考慮すると、「あかふじ」運航マニュアルに記載されている「山梨県消防防災ヘリコプター市町村防災訓練等参加に関する取り扱い要領」救出救助訓練の科目の一つとして消防隊員の現場投入訓練を実施していますので、これを機会に訓練に参加申込していただき、有事に備えていただきたいと思います。

詳細につきましては、航空隊格納庫においての事前講習、あかふじや仮設の施設を使用した駐機訓練を行った後、実機訓練としてあかふじからの同時降下を行います。

山梨県消防防災航空隊「あかふし」
シヨルスキー JA6748

